

9 月号
VOL. 474

土會奈良



SHIKAI

2013 NARA

表紙のことは

奈良の近代化遺産 4・旧長寿会細菌研究所
(フトルミン工場跡)



東大寺の裏参道沿い、静謐な空気に包まれた一角に何とも懐かしい風情の建物が佇んでいます。

この建物は乳酸菌、イースト菌、椎茸菌など様々な菌類の研究と商品開発を行っていた長寿会細菌研究所の研究所兼工場跡。栄養失調が多かった時代に健康長寿を願い開発された乳酸菌飲料「フトルミン」の研究・製造が行われてきた場所です。木造平屋建て、切妻屋根に和瓦が葺かれた建物は小屋組みがトラス、外壁が南京下見板貼で大正14年築。基礎がコンクリートでできており大正の建築としては珍しいとの事。

設計・施工したのは郡山出身の大工棟梁・大木吉太郎。大木家は代々、郡山藩の御用大工を務めてきた家柄で吉太郎は頑固一徹の職人氣質の棟梁だったと伝えられていますが、和魂洋才の気概をもったクリエイターで近代奈良を築いた建築家のひとりと言っても過言は無いと思います。他に手掛けた建築には、この工場跡に隣接する喜多家住宅や育英学園校舎、日本聖公会奈良基督教会などがあり、武者修行で東京に居る時は日本橋三越ビルの新築工事などに関わったようです。大正ロマンを肌で感じ、和とも洋ともいえないモダンな空間を残した人と言えるでしょう。

さて、この建物は昭和50年代半ばまでは操業されていましたが、その後閉鎖され、もうフトルミンは製造されていませんが、近年、その名も「工場跡」という名前のカフェ・イベントスペースとしてリノベーションされ活用されているのです。出来る限り手を加えず、往時の雰囲気を残したまま再生され、レトロ感いっぱいの商空間に生まれ変わっています。(記・中尾克治)

写真提供：公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 奈良地域会

情報・広報委員会

委員長	松尾 憲治		
職務代理			
副委員長	田上 圭吾	折目 貴司	
委員	乾井 哲	岩城由里子	
	鵜山 治	小松原寛俊	
	崎山 泰正	辻 元二	
	福西 保夫	福本 保治	
	宮浦 重彦	森馬 康之	

Contents

001 住まいまちづくり委員会
「平成25年度 住まいまちづくり
委員会事業について」

002 住まいまちづくり委員会
「ひょうごヘリテージ
マネージャー大会報告」

003 女性委員会
「平成25年度
全国女性建築士連絡協議会」

004 青年委員会
「大和さくらい万葉まつり」

005
「HANARART」

006 生駒支部
「商工祭り」

007 奈良支部
「姫路城見学会」

008 奈良まちづくりセンター
「町家デザインコード」

010 郡山支部
「活動レポート」

012 支部報告
「奈良支部報告会」

013 お知らせ
「平成25年度 建築士試験日程のご案内」 他



住まいまちづくり委員会 平成25年度 住まいまちづくり委員会事業について

住まいまちづくり委員会は奈良県建築士会の重点施策「地域貢献活動の推進」に係る事業を行っています。まちづくりと言っても範囲が広く、「住環境福祉部会」「住宅相談部会」「ヘリテージ部会」そして「景観まちづくり部会」の4つの部会が夫々対応しています。

住環境福祉部会は「住環境の改善及び福祉整備」に関する事業を担当、以前は「奈良県住みよい福祉のまちづくり条例」の設計マニュアル編集に関ったり、福祉に関する勉強会等を行ってきましたが、福祉環境の整備だけでなく広く住まいの環境整備に対して建築士がどのように貢献できるかを考えています。

昨年度は～自然エネルギー（太陽光）を活かした住環境設計のために～スケッチアップ講習会を開催しました。（写真：募集パンフ）

今年度は「地域型住宅ブランド化事業」を支援する建築士の育成を行いたいと考えています。

住宅相談部会は「住宅相談」に関する事業を担当、奈良県民向けに「なら・すまいアップセンター住宅無料相談」を行っています。（写真：ポスター）

相談時には、実際現地に来て見てほしいという要望が強く「現地相談名簿」を作成しましたが、設計・監理・施工や耐震などの要望も多いため、平成24年度には建築士会員の協力を得て「設計監理名簿」「施工業者名簿」「耐震診断名簿」を作成、奈良県建築士会ホームページにアップしました。

今年度はその活用状況を見て、更に利用しやすいものにしていきたいと考えています。

ヘリテージ部会は「まちづくりに関わる教育及び人材育成」並びに「奈良まちづくり地域貢献活動センターの運営」に関する事業を担当、「まちづくりに関わる教育及び人材育成」については、平成22年度から24年度の3年間に渡り「歴史的建造物の専門家育成事業」を文化庁の補助を受けて実施しました。これにより80数名の専門家（ヘリテージ

マネージャー）が誕生しました。

この講習会は受講希望者が多く、受講できなかった方もあったことから、今年度は奈良県を通じて「平成25年度文化遺産を活かした地域活性化事業」として文化庁の補助事業の採択を頂きましたので、同様の専門家育成講習会を実施します。おそらく今年度が最後の助成講習になると考えられます。

また、講習会を終了した専門家は奈良県に登録し、行政等が実施する歴史的建造物の事業に関わりができるように積極的な推進を進めたいと考えています。そのためにも歴史的建造物専門家として必要とする能力の継続的なスキルアップ講習会も予定しています。



講習会風景

景観まちづくり部会は「建築に係る景観・環境問題、まちづくり活動の推進」に関する事業を担当、平成22年度から24年度に実施した「歴史的建造物専門家育成事業」では、ヘリテージ部会と合同で対応し歴史的建造物の分布及び建物調査、また調査した歴史的建造物の中から重要と思われる建造物の活用提案を実施しました。最後に3年間のまとめとして、「景観まちづくりシンポジウム」を景観デザイン賞報告会と合同で実施をしました。

今年度は昨年と同様に講習会の一部を担うと共に、歴史的建造物の利活用や景観に対する意識を高めるための講演会等を実施する予定です。

（記・紀本澄男）



歴史的建造物の分布調査風景

ひょうごヘリテージマネージャー大会に参加して

主催 ひょうごヘリテージ機構H2O

兵庫県建築士会が中心となり立ち上げた「ひょうごヘリテージ機構H2O」の10年間の活動の総括として、旧居留地エリアで見学会、講演会、フォーラムなどが催された。

奈良県も住まいまちづくり委員会のヘリテージ部会が、建築士会連合会の全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会の設立に伴い、歴史的建造物の保存活用に向けて動き出さなければ行けないこともあり、先進地である兵庫の活動を知ろうと委員会から数人参加した。

午前中私は、現在カフェ&レストランとして利用されている「旧神戸居留地15番館」の見学コースに参加した。居留地の近代西洋建築は戦災で多くを失い、平成7年の震災で大打撃を受けた。この建築は旧居留地時代からの唯一の建物で、平成元年に国の重要文化に指定されていた為に復旧されることとなった。文化財指定の無かった建物は復旧されることは難しく、このことの教訓から登録文化財の制度が立ち上がり広がっていったとも聞いている。兵庫県建築士会が全国に先駆けてヘリテージマネージャーの育成を推進し保存活用にまい進されたのは、地震で多くを失った地としての危機感からである。



「旧神戸居留地15番館」

復元に携わった方によると、この15番館は木骨煉瓦造、二階建てで大地震によって完全に崩壊した建物を再生するのは初めてであり、古材をどれだけ再利用し文化的価値を失うことなく忠実に復元できるかが第一の問題であった。

「ほぞ」がほとんど被害を受けていて、木を継ぎ足して新たに「ほぞ」を作るなど木造建築の技が発揮された。結局、古材利用率は約70%で当初予想していたよりもかなり高い利用率となったらしい。

免震構法を中心とした耐震補強がなされ、木造としても重要文化財としても日本で初の免震装置付き建物である。しかし木造の重量が軽く、装置への重量が不足であったが、人工地盤としてスラブを設け、SRC造の2本の煙突

と一体化し解決を図った。伝統的技法を再現した漆喰塗りや、暖炉の金物など外国からの支援も受けた。これは得難い体験であり、古建築修復のノウハウを蓄積することは出来たが、継承される環境がまだ整っていないと最後に話された。室内はコロニアルスタイルの美しい意匠に絵画で少しポップ性を持たせ親しみやすい雰囲気を出していた。

(記・景観まちづくり部会 徳本雅代)



「デザイン・クリエイティブセンター「KITO」での講演」

午後から行われた後藤治教授による基調講演では、古い建物を残すためには、所有者・地域住民の理解が必要で、調査研究により歴史的・文化的価値を発見することで地域住民と価値の共有をすること、また改修・修復は価値を見えるようにして将来につなぐことである。東日本大震災時に修復不能として早急に撤去された文化的建造物があるが、撤去されないためには対応マニュアルの活用と初期段階でのHM（ヘリテージマネージャー）等のアドバイスが必要である。建築基準法3条の地域条例で定めて建築審査会の同意を得て適用除外と指定するようにしていくべきではとの意見があった。また、英国、ドイツでは、利用者制限や避難強化策により性能確保することでグローブ劇場等が活用されていると報告があった。その後、6会場で50分毎の分科会に分かれて兵庫県の各地区での活動・近代建築物調査について、HMの活動総論、兵庫県での10年間の活動報告があった。

HM活動総論は、兵庫県文化財課長の村上裕道氏より経緯や地域活動と広域連携について、「ひょうごヘリテージ機構(H2O)」代表世話人の沢田伸氏から兵庫HM10年史について報告があり、11期の講習で受講者356名、HM登録者277名であること、年報を発行し次年度の活動資金としていくこと、また兵庫県の古民家再生促進事業について県まち再生企画課、岡本憲幸氏より補助制度の説明があった。今後奈良県建築士会の専門家育成で考えさせられることが多かった。

(記・ヘリテージ部会 高安秀和)



女性委員会 全国女性建築士連絡協議会 第23回全国女性建築士連絡協議会（東京大会）

「地域と共生する居住環境づくり」～見直そう、これからの住環境と暮らし～

日本建築学会（建築会館ホール他）、全国から300名を超える女性建築士が参加し2日間開催されました。

○7月13日（土）

【開会式】～【基調講演】：天野 彰氏（アトリエ4 A主催）

テーマ「江戸に学ぶ狭さ楽しさ」貴方だからこそできる
“真”の永久居住空間づくり。

・熊さんハっあんの江戸の文化に学ぶ現在居住学

【9尺2間の江戸の裏長屋に学ぶ都市の暮らしとこれから】

私達が暮らす便利な都会の家は「狭い」・広い家に住む＝経済が狭い・「郊外の広い家」＝通勤時間が長い⇒人間関係が狭い。私たちは所詮この“狭さの三竦み”からは逃れようがない。ならば「狭苦しい」⇒今の狭い空間を知恵を絞って、立体的に使い時間差で、あるいは多重に使うこの3つが“広く住む”「狭さ楽しさ」の手法につながる。

考えてみれば「狭さを楽しむ」ことは、あの利休の「茶の湯」の宇宙観であり、高尚かつスマートな“生活嗜好”とも言えるのです。狭い家、車いすより這ってでも自立して生きる家にする。熊さんハっあんの老いの住まいは必ずしもバリアフリーの家でもなく、ましてや車いすなどで暮らせる家ではありません。ベッドからトイレ、さらには浴室へと自力で腰をすらして移動できるベンチやそのまま洗い場のスノコまで這って行き寝たままシャワーを浴びるなど究極の自立を考えるのです。いわばリハビリで厳しい時代を生きる意識を養うのです。これにより意識が高揚となり自立の生活が出来るのです。いずれ介護や入院も必要となるでしょうが、極力在宅で、仕上げ材や通報センサー等セキュリティにあらゆる安全策を取りながら、介護ではなくあくまでサポートを受けながら自立した生活をし、さらにレンタルの介助補助の装置や新時代のロボットなどで一日も長く“わが屋で生きて”行くことです。



【活動報告】

- ・ユニバーサルデザイン研究会について（兵庫）
- ・「地域防災における建築士の役割」（鳥取）
【被災地における現状報告と取り組み】
- ・「住まいの再建となりわいの再建」（岩手）
- ・「被災地宮城県における現状報告と取り組み」（宮城）
「考えよう！ 明日を担う子供たちのための住まいづくり」（福島）
- ・「長野県栄村復興村営住宅プロジェクト」（長野）
平成24年22回京都大会に引き続き被災地からの取り組み発表が有りました。

○7月14日（日）

【分科会】

- ・A分科会 「震災①防災への取り組み」
- ・B分科会 「震災②ボランティア活動の報告と取り組み」
- ・C分科会 「歴史的建造物と建物再生」
- ・D部分科会 「環境共生住宅と素材」
- ・E部分科会 「景観まちづくり」
- ・F分科会 「子どもと住環境」
- ・G分科会 「高齢社会」
- ・H分科会 「集まって住む」

【E分科会に参加して】

「高岡の建築とまちづくり」

徳田義弘（富山県建築士会）

土蔵造りのまちなみを残そうと活動が始まって30年。
2008年「高岡の建築とまちづくりネットワーク」を組織し、行政・学生・職人・住民・建築士との協働で活動している。

「滋賀県大津市におけるまちづくり」

柴山直子（滋賀県建築士会）

1992年に自邸となった明治5年築の大津町家の改築計画に着手。2005年より近所の方々や大津市と一緒に、町家に住む建築士として大津町家の保全を中心とした景観まちづくりにかかわり「ひととすまいとまちをつむぐ」ことをめざして取り組んできた。柴山さんは、単独でまちづくりの活動を地道につづけ現在では大津市都市計画課の若手職員と協働でまちづくり活動を行い、若手職員を育てている？事はわが県でも見習うべきところが有る。行政に色々な情報提供し協働できる建築士会であるべきだと思う。

（記・女性委員会 安田千鶴代）



青年委員会 事業案内

今年も「大和さくらい万葉まつり」に参加します

是非、お越し下さい

平素は青年委員会活動にご協力いただき、ありがとうございます。さて我々青年委員会は、9月7日（土）に桜井市で開催される「大和さくらい万葉まつり」に参加いたします。

本まつりにはここ数年、継続して参加しており、多くの一般市民の方々と交流を通じて、建築士及び建築士会のPRをさせていただいています。

和楽器パフォーマンスや屋台の出店などもございますので、2013年夏の思い出作りとして、ご家族、ご友人とお誘い合わせの上、お越しください。



昨年からお揃いの赤のポロシャツを着てPR活動。



たくさんの方に手作りカヌーを体験して頂きました。

出会いと語らいのあるまつり

2013年 9/7 (土)
14:00~20:30(雨天翌日順延)
金屋河川敷公園特設会場

大和さくらい
万葉まつり

和楽器でも飾らば
独自パフォーマンス!
第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八・第九・第十・第十一・第十二・第十三・第十四・第十五・第十六・第十七・第十八・第十九・第二十・第二十一・第二十二・第二十三・第二十四・第二十五・第二十六・第二十七・第二十八・第二十九・第三十・第三十一・第三十二・第三十三・第三十四・第三十五・第三十六・第三十七・第三十八・第三十九・第四十・第四十一・第四十二・第四十三・第四十四・第四十五・第四十六・第四十七・第四十八・第四十九・第五十・第五十一・第五十二・第五十三・第五十四・第五十五・第五十六・第五十七・第五十八・第五十九・第六十・第六十一・第六十二・第六十三・第六十四・第六十五・第六十六・第六十七・第六十八・第六十九・第七十・第七十一・第七十二・第七十三・第七十四・第七十五・第七十六・第七十七・第七十八・第七十九・第八十・第八十一・第八十二・第八十三・第八十四・第八十五・第八十六・第八十七・第八十八・第八十九・第九十・第九十一・第九十二・第九十三・第九十四・第九十五・第九十六・第九十七・第九十八・第九十九・第一百

海石榴市 歌垣火送り うた語り

その他イベント満載です。
ホームページにも詳しく掲載しています。ご覧ください。
<http://www.manyou-fes.jp/>

《無料シャトルバス運行》

（ご注意ください。）

●主催／大和さくらい万葉まつり実行委員会
●後援／奈良県・桜井市・桜井市教育委員会・桜井市広域連合・近畿日本鉄道株式会社・西日本旅客鉄道株式会社・奈良交通株式会社

お問い合わせ先 大和さくらい万葉まつり実行委員会 Tel.0744-42-8111 (内線341)
URL:<http://www.manyou-fes.jp/> E-mail:info@manyou-fes.jp

歴史街道

開催日時：2013年9月7日（土）

14：00～20：30（雨天翌日順延）

場 所：桜井市金屋 河川敷公園特設会場

ー青年委員会の参加概要ー

- ①会場である大和川にカヌー（奈良県産材を用いて、青年委員会の有志が制作）を浮かべて、子供を中心とした来場者の方々に乗船していただきます。
- ②建築士会ブースを設けます。
ブース内では来場者の方々に青年委員会のメンバーが手作りの「木のパズル」に挑戦いただくとともに、建築士会PRちらしの配布や建士会活動報告パネルの掲示などを行います。

本まつりに関わらず、他地域・他イベントにも、積極的に参加したいと考えていますので、そのような場をご存知の方がおられましたら、青年委員会メンバーにお声掛けをお願いします。

（記・青年委員会 武村修宏）



『奈良・町家の芸術祭HANARART(はならあと)2013』

開催

今年3回目を迎える『奈良・町家の芸術祭 HANARART 2013』(文章内以後 HANARART 2013) の紹介をします。



HANARART は、本県に多数存在する魅力ある歴史的な町家・町並み地区を会場に、斬新な発想を持った『現代アート』の表現者達を呼び込み、『まち』と組み合わせた現代アート展です。

近年、歴史ある町並み地区は、空き家の増加と老朽化が目立ち、良好な景観が失

われつつあります。また、少子高齢化や人口減少が進むにつれ、住民の問題意識・当事者意識が希薄となり、地区の活性化・安全性が阻害されて、コミュニティが崩壊するリスクにさらされています。

HANARART は『まち』に新たな風を吹き込むことで、今までと違う表情や機能を持ち、さらに魅力ある『まち』に発展、その可能性が広がると考え、2011年に第1回、2012年に第2回を開催しました(2012年の来場者延べ人数: 約5万8500人)。

1. テーマは『アート×地域の^{れんさ}恋鎖反応』

今年の HANARART 2013は『アート×地域の^{れんさ}恋鎖反応』をテーマに、8エリア、リレー方式で開催。人が人を呼び、アートが地域に恋をし、来場者が奈良に恋をする。アートと地域、人と地域、地域相互のつながりをさらに広め、影響を与え合い、関わる人達全てが HANARART を楽しみ、地域の中で新しい価値観と新しい魅力の『^{れんさはんのう}恋鎖反応』を起こしていきます。

2. HANARART 『こあ』

『HANARART こあ』は郡山城下町(大和郡山市)にて開催。公募選考審査(審査員国立国際美術館主任研究員中井康之氏)によって選ばれた3組のキュレーター(*1)による企画展開で、3つのゾーンにそれぞれのキュレーター

がアーティストを召集。『まち』や『場』の歴史・文化を鑑み、新しい感覚や手法で企画・実現していく展覧会です。

※1『キュレーター』

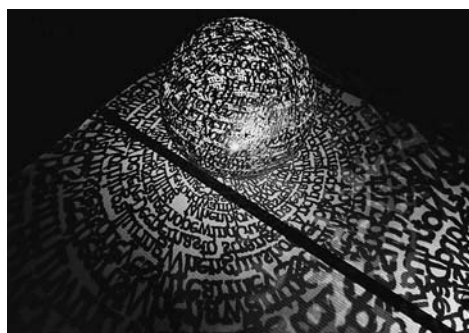
…展示会場での作品・作家のコーディネート・作品配置、展示に関わる提案者、責任者である。



3. HANARART 『もあ』『えあ』『玉手箱プロジェクト』

『HANARART もあ』は、現代アート作家が自主的かつ自由に開催する個展・グループ展で、ワークショップ(一般参加型の共同制作イベント)などを含め、各エリアすべてで展開。

アーティストが各エリアの町家等で開催会期前から滞在し、作品制作展示を行うアーティスト・イン・レジデンス(A.I.R=えあ)『HANARART えあ』は、地域の文化



や風を感じながら制作過程を公開することで、会場オーナーや地域住民とアーティストの間に、新たな交流を創出。『まち』

の人々が自慢の作品や、音楽等を披露する『玉手箱プロジェクト』もあり、地域の魅力発信、住民の『まち』に対する誇り・愛着の醸成の機会となると同時に、今までになかった町家利活用の新たな可能性を発信していきます。

4. 開催エリアは8エリア。ご期待ください!

五條新町(五條市)	: 9/7~9/16
御所市名柄(御所市)	: 9/14~9/16
八木札の辻(橿原市)	: 9/20~9/29
今井町(橿原市)	: 9/27~10/6
郡山城下町(大和郡山市)	: 10/12~10/20
宇陀松山(宇陀市)	: 10/20~10/27
奈良きたまち(奈良市)	: 11/1~11/10
桜井本町(桜井市)	: 11/16~11/26

(奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会事務局
山下遊未)

生駒支部 斑鳩町商工まつり

生駒支部では、7月27日（土）いかるがホールにて斑鳩町商工会主催の斑鳩町商工まつりに去年に引き続き参加しました。斑鳩町商工まつりは今年で33回目を迎え、地域の繋がりをテーマに商工会青年部が中心に、一日中楽しくそして学べるイベントを企画しています。

内容は、ちびっこステージ、ビンゴ大会、子ども遊び場、企業PR、フリーマーケット、動物園、模擬店、花火大会と盛りだくさん、地域の住民のみなさんが楽しんでおられました、関係者の皆様お疲れ様でした。

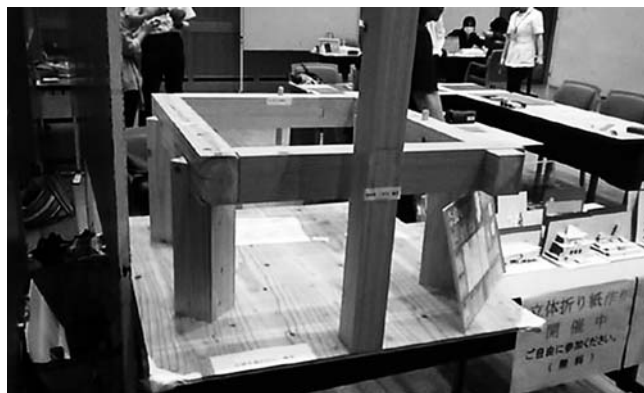
さて、生駒支部といたしましては、「建築士による無料相談会」を実施、身近な悩みや疑問にお答えしたいと考えていましたが……「立体折り紙」作りが盛況で子どもたち相手に建築士が奮闘しておりました。

建築相談とは直接関係ありませんでしたが、地域住民との交流を通して貢献できたかと思います。



建築士による
相談会？！

大工さんが作ってくれた伝統木造の継ぎ手、仕口模型を展示しました。大阪城で発見された「婆娑羅（バサラ）」継ぎ手には、みなさん興味津々で木造の良さが伝わったかなと思っています。



「立体折り紙」は、型紙を切って、折って作るのですが、カッターナイフの使い方、金尺の使い方、折り方を士会メンバーがやさしく子どもたちに指導しながら作りました。当初は、自分たちで作りたいと言っていたのですが、あまりの盛況ぶりに休憩する間もないぐらい参加者相手に奮闘、子どもたちにはケガもなく無事終わりました。「立体折り紙」は簡単な模型ではありますが、子どもたちには建築模型に興味をもっていただけたかなと、この子たちが将来建築士を目指すことを切望します。



生駒支部では、今後も地域住民向けにいろんな活動をしていき、建築士会、建築士を知っていただき、地域住民との距離を近づけ、住みよい良質な住まいづくりのお手伝いができればと思います。

みなさん本当にお疲れ様でした、このような生駒支部の活動が広く地域貢献につながれば幸いです。

（記・生駒支部 森田善友）



奈良支部 姫路城見学会

夏休みが始まる前日の7月19日。奈良支部主催の「姫路城保存修理見学会」に参加しました。御存知の通り姫路城は「法隆寺地域の仏教建造物」と同時期に日本初の世界文化遺産に登録され、現在は平成の大修理の真っ最中です。その素屋根内部に入って間近に修理の現場を見学してきました。

姫路城に向かう前に少しかだけ遠回りをして姫路モノレール廃線跡をバスの中から眺めました。姫路モノレールについてここで少し書いておくと、姫路城の昭和の大修理が終わったのが1964年。姫路市はこれを記念して2年後の1966年に姫路大博覧会を開くわけですが、その輸送手段としてモノレールを建設し、博覧会後も営業していたのですが、残念ながら営業不振のために1979年には廃止されてしまいました。近年の似た例でいえば、2005年の愛知万博のリニモも赤字路線であり、都市計画の難しさというものを、この路線跡はイヤでも思い起こさせます。

朽ち果てていく路線跡を見ながら姫路城に到着。見学予定時間までは少しあるので、近くにある安藤忠雄の姫路文学館を駆け足でみて、早めの昼食。そしていよいよ本日のメインイベント、姫路城に向かいました。

「菱の門」近くの入場口で、ここから先の案内と解説をしてくださる姫路市の小林さんと合流。解説を聞きながら、いろは順に名前が付いている門をくぐり抜け、「ぬの門」脇にある「リの一渡櫓」で、江戸・明治・昭和と各時代の大天守の鯨を間近に見ることができました。



いつもは屋根の上にあり、遠くからしか眺められないモノですが、奈良で作られていると聞いてしまうと、なぜか親近感が湧いて、怖いはずの鯨の顔も何故かユーモラスに見えてきます。

そのあとは大天守に向かい、ここからは一般には公開さ

れていないルートで素屋根内部を見学していきます。まずは資材搬入用の構台に到着。ここで漆喰塗のテストピースを前に、姫路城がカビに悩まされている話を聞きました。漆喰には数年でカビが生えて黒ずんでくるそうで、今回の工事ではカビ対策もするそうです。

そしてエレベーターで一気到大天守レベルの8階に向かいました。普段は見上げるしかなく、小さく感じている天守を、いざ目の高さで間近に見ると、なんと言えいいのか本当に「ゴツイ」。ほとんど瓦と漆喰の塊のような気がします。「よくこんな重いものを建物の一番上に作ろうとするよなあ……」と考えてしまうわけですが、最上階で使用されないまま壁に塗り込められた幻の開口部が四隅にあるということを知ってしまうと、昔の人も造りながら「ちょっと怖いよね……」なんて思っていたのかと想像してみたりもしました。実際の所、構造的な問題のみで開口部を減らしたのかは不明らしいですが、そういう「想像できる余地」というのは楽しいモノですね。

素屋根の中を下まで降りて、そこからさらに一般公開されているルートに入ってまた天守レベルを見学。気がつけば帰る時間が迫っているという状態になるまで、参加者の皆さんも熱心に見学されていました。



最後になりましたが、本当に時間いっぱいまで姫路城の案内、解説をしてくださいました姫路市役所産業局周辺整備室（姫路城改修担当）課長補佐の小林様、現地で手配をしてくださいました兵庫県建築士会姫路支部の中山様、西脇様、参加人数分のヘルメットを快く貸与くださいました大倭殖産株式会社様、そしてツアーを企画されました奈良支部の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

（記・奈良支部 細井健至）



奈良まちづくりセンター

新町家デザインコードのとりくみについて

—奈良の伝統的町家スタイルの継承による環境に配慮した住まいづくり—

1 はじめに

奈良町の碁盤の目状の街路にそって、住まいや店が密集して建ち並ぶ伝統的町家には、町中に密集して住むための工夫が沢山詰め込まれています。小さいけれど豊かな自然を感じることが出来る中庭や縁側等快適に過ごす設えがあります。また、うだつや隣同士が隙間なく連続した瓦屋根等防火を考えた建て方がみられます。長い年月を経て培われてきた住まいづくりの知恵だと考えられます。

社団法人奈良まちづくりセンター（以下NMC）では、3年前に「奈良町における住まいの作法」というテーマで、奈良町の伝統的町家における、密集した中での自然との共生や隣近所と関係を維持する生活スタイル(住まいの作法)を整理しました。それを踏まえ、昨年度、建物そのものに着目し、新築の住宅でもできる建て方の工夫をデザインコードとして抽出し、低炭素性や防災性に配慮した伝統的町家スタイルの継承を目指す、取り組みをおこないました。

そして、この取り組みをNMCだけが行なうのではなく、奈良県建築士会等奈良の町家を建築技術的に支えておられる方々の協力と参加を得て、調査結果や町家の実態を踏まえて議論し、関係する技術者の情報交換の場を確保することを目指しました。



「奈良の町家を考える会」の集会風景

2 取り組み体制

本活動を進めるために、町家の保全・活用をすすめる活動団体や研究者、県内の若手建築家による研究会「奈良の町家を考える会」を結成し、11月から3月までの4回にわたり、毎回、15名～20名の参加を得て意見交換を実施しました。参加団体は、特定非営利活動法人さんが俣座、なら・町家研究会、一般社団法人奈良県建築士会、一般社団法人奈良県建築士事務所協会、公益社団法人日本建築家協会近畿支部奈良地域会の皆さんとNMCが参加しました。さらに、研究支援として奈良女子大と畿央大が、行政として奈

良市役所職員の方の参加・協力も得ました。

3 町家の実測調査

町家特性調査は、調査対象として合意の得られた3件で実施しました。芝新屋町A邸、西新屋町B邸、元興寺町C邸にご協力をいただきました。



左上：A邸 外観
右上：B邸 中座
左下：C邸 座敷

実測調査した3件は、部分的に改修されており、共通しているのは、通り庭等に天井を貼るなど冬季での暖気を閉じ込める改修を行う一方で、天窓設置による採光の確保がなされていました。また、中庭から表側の風通し確保により夏季のクーラー利用を抑えることができていたことが、居住者ヒアリングで分かりました。

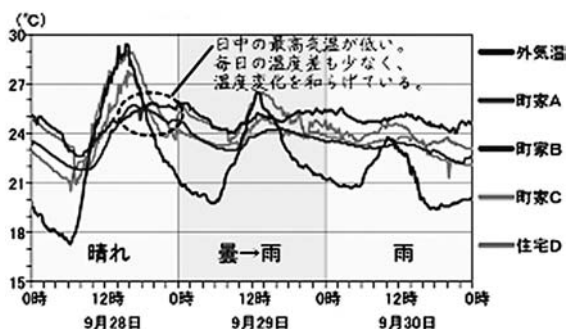


実測調査風景

4 室内環境調査

伝統的町家3邸の環境測定実測も行いました。比較対象としてプレハブ住宅（芝新屋町D邸）1邸、合計4邸について、畿央大学東准教授に依頼し、自動記録機能付き温湿度計を、居間、台所、トイレ、居室に配置し、10分毎に9月から1月まで温湿度等を記録して整理しました。これまで感覚的な「暑さ」「寒さ」を室温と湿度というデータで実

証することができました。空気の入れ替え頻度や暖房器具の種類や使用状況等生活スタイルにより、町家でも温湿度環境が全く異なりました。調査結果の要点としては、①夏は比較的涼しく良好であるが、2階の屋根面の断熱が必要。②冬は「寒い」とは言い切れない。外気の流入をコントロールできている部屋については快適に過せている。中庭等からの太陽光の取り込みを上手く使えると良好である。③土間そのものは蓄熱機能があり、暖かく、この機能をうまく使えると、より快適に過せる。とのことでした。



居間の夏季における温度変化と自動記録機能付温湿度計

5 伝統的町家のデザインコードの抽出

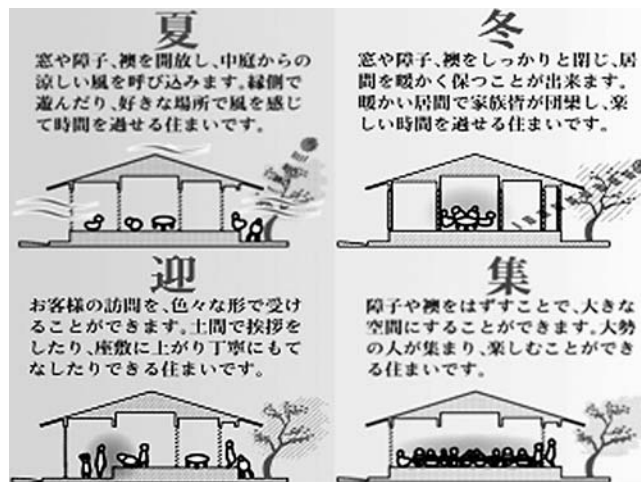
デザインコードの抽出にあたっては、まだまだ議論や表現の工夫が必要ですが、現時点で次のようなキーワードでとりまとめ、パンフレットを作成しました。(考え方は、京都市が推進する環境配慮型の住まいづくりプロジェクト「平成の京町家」からヒントを得た。)



パンフレット (抜粋)

●季節を羽織る住まい

町家は、それぞれの季節に合わせ、空間を閉じたり開いたりして変化しています。季節を感じて着物を羽織ったり脱いだりするように、町家もこれらを上手く使いこなし、暑さ、寒さを調整しています。



季節を羽織る住まいのイメージ

●知恵と工夫があふれる住まい

町家には中庭、縁側、土間・通り庭・吹抜けといった特徴的な空間があります。また、格子・軒・庇、卯立・虫籠窓、煙出し・無双窓、障子・葎戸といった環境や防火の性能をもった設えがあります。瓦、土壁、無垢材など多くの機能を持った素材も使用されています。

●風を感じる住まい—中庭・縁側のある住まい—

町家には、中庭から縁側、座敷、店の間、土間を抜け格子から道路へ風が抜け、熱気を排出する「風の通り道」が住まいの中に埋め込まれています。また、中庭は建物内に光と風を送り込むとともに、土や水など自然も取込み、町なかでも豊かな自然にふれあえる機会を育んでいます。

●町家の暮らしを楽しむ

町家の暮らしは、自然に対峙するのではなく、お互いに寄り添う「環境と共生」した住まい方です。高気密高断熱の現代的な住まいとは異なり、冬は寒いですが、「外気に面しない座敷を生活の中心にする」「炬燵等放射型の暖房」等町家ならではの住まい方を実践してきました。

6 終わりに

この取り組みで、改めて町家における中庭の重要性を再認識しました。今後、中庭を軸にした調査や体験活動を積み重ねることが、一つの方向性として見えてきました。

また、「奈良の町家を考える会」が、町家の専門家が集まる機会となったことは、評価できるものと思います。今後、「奈良の町家を考える会」では具体的なテーマをおいて実践的な取り組みを進めていきたいと思っています。平成25年度は今井町での町家改修の実践に取り組む予定しておりますので、今回の調査結果や取組に関心のある方はご連絡ください。

(記・(社)奈良まちづくりセンター、「奈良の町家を考える会」メンバー 吉田昌・藤野正文)



郡山支部活動報告

「郡山箱本十三町」地域の町家調査・提案概要と HANARART玉手箱プロジェクトとしての「パネル展」予定

郡山支部では、文化庁の「地域伝統文化総合活性化事業」に対し奈良県建築士会が行う「歴史的建造物の保全・活用の促進による地域の活性化事業」の一環として地域の町家の調査を実施しました（期間：平成22年10月～平成25年3月）。受け継がれた伝統や文化、景観、風土、生活の知恵などが地域にはまだ今も残されています。特に城下町であった大和郡山市には格式の高い文化が開花しました。

その中でも私達は町家や商家、農家型民家など時代を反映した建物に焦点を当て、壊され姿を消す現状と、それと平行して起こるまち並みの変化について、この調査を通して感じ取ることができました。そして、今後の新しい建物の指針となる形態を見つけていく必要性も感じております。

歴史ある大和郡山市の現況を踏まえ、美しい町並みと歴史的建造物の保存活用を進める為に、この調査結果を活かしながら、今後どのような活動ができるかを模索中です。

本稿では、上記調査の概要と“堺町の町家”での利活用の提案、9月のパネル展示予定についてご報告します。

【箱本十三町に残る町家】

調査地域の建物は古いものは少なくほとんどが江戸末期でした。これは郡山の町が受けた火災、地震などの災害により消失したことが原因であり、寛文（1670年）延宝（1680年）元禄（1699年）の火災、寛政（1791年）の風雨、安政（1857年）の地震と続き、安政の地震では市中の約3割の町屋が壊れたと記されています。

【箱本十三町で取り壊しが進む町家や歴史的建造物】

旧市街地の中でも最も城下町らしい街並み景観を残しているのは、本町から鍛冶町に掛けての本町筋ですが、近年、町家が壊され駐車場になるなどまち並みは大きく変化しています。街中には前面だけを改装した看板建築や大正、昭和初期の建物なども点在して残っていますが、近年では江戸期の町家同様、取り壊されて駐車場になるなどのケースが増えており、箱本十三町全体で町家（歴史的建造物）の減少が進んでいます（図表－1参照）。

【やまと郡山城ホールにてパネル展示報告会を開催】

調査結果を広く一般の方や行政の方にも知っていただくために、2012年9月17日に「やまと郡山城ホール」にて、パネル展示報告会を開催しました。上田市長様はじめ多くの方のご意見が伺えました。



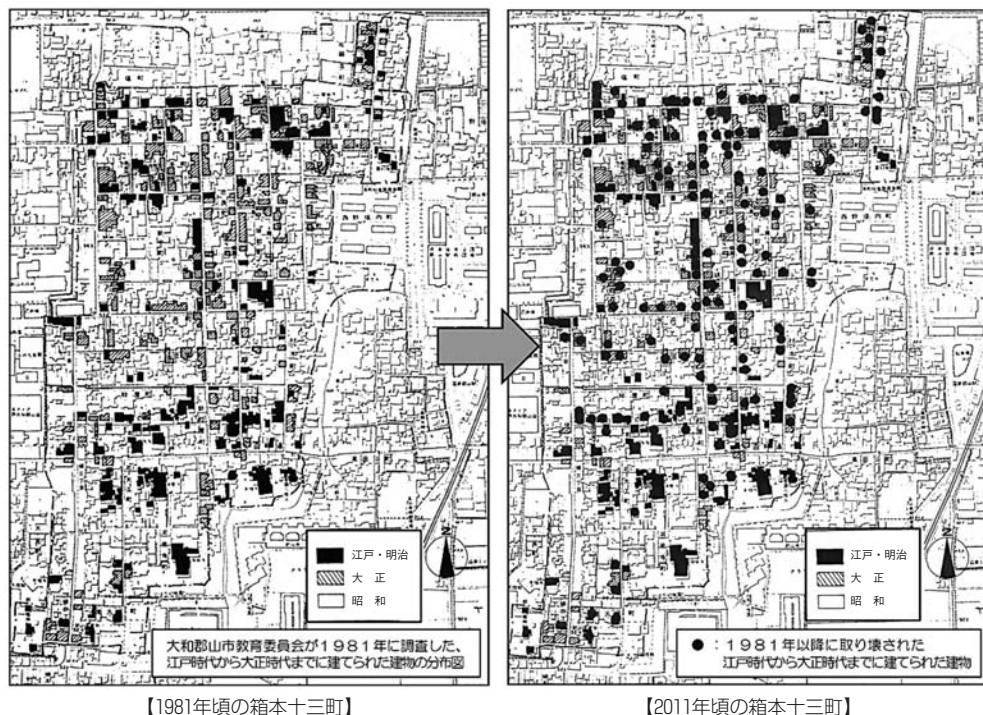
図表－2 パネル展示報告会での集合写真



【1981年頃の矢田町通】



【2012年の矢田町通】



図表－1 大和郡山市内の箱本十三町に残る町家の変化 ●の数だけ建物が減少

〔平成24年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業に『堺町の町家再生・活用』を提案〕

郡山城の城下町（箱本十三町）のひとつである堺町は、和泉の堺から商人を集められてつくられたと言われており、かつては商店が建ち並び、柳町と共に商業の中心として活況を呈していました。明治時代以後も経済発展を続けていましたが、近年、主力店舗の相次ぐ撤退、郊外型大型商業施設の立地等もあって、まち全体の賑わいが一気に失われました。現在では営業している店舗も少なく、町家の取り壊しにより、住宅等への建替えの他、駐車場・空き地も増え、まち並みは変化しつつあります。

その一角にある“堺町の町家”について、現況の調査を行い、利活用の提案を行いました。現状の建物配置や建物内部の間取りは図表－3の通りで、建物内部には、「書院や付書院、床の間の床柱、欄間、階段手摺、縁側手摺や化粧軒裏」、建物外部には、「虫籠窓やうだつの装飾」等、凝った意匠が随所に施されており、町家の中でも格の高い建物であったことが推測されました。戦後は借家として利用されていたが、現在は空き家となっています。

堺町の町家に近く、近年、断続的にアートイベントで活用されている浅井家酒蔵と併せて計画し、建物本来の魅力を残しつつ、活用内容を踏まえた最小限の改修を行うこととして、提案（図表－4）を作成しました。

さらに、兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科による研究の一環として、今回提案の実践が将来のまち並み形成にどのような影響を及ぼすかについて、箱本十三町を対象にシミュレーションを活用した検討も行っています（図表－5参照）。その結果、今回提案も含めた地域での地道な活動は、地域住民の景観に配慮する意識を高める一方で、行政や企業等住宅供給側の地域に根差したまちづくりに対する賛同の輪を広げることとなり、将来のまちなみ継承を考えた際には、意味のあるものと考えられました。

〔「城下町郡山箱本十三町パネル展2013」を開催予定〕

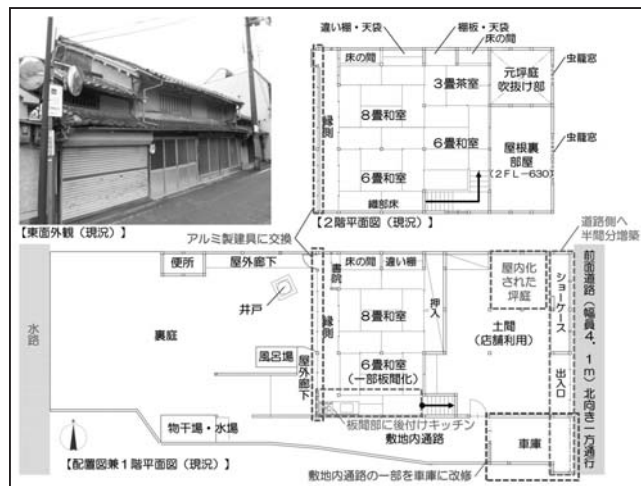
より多くの方に、郡山城下町のまち並みに関心をもっていただくために、「HANARART2013」の開催期間中にパネル展示会を開催します。様々な立場からまち並みを一緒に考えるきっかけになればと、「郡山城下町建物探訪」部会メンバー一同、皆様のお越しをお待ち申し上げます。

◆日時 10月12日(土)～20日(日) 10時～17時

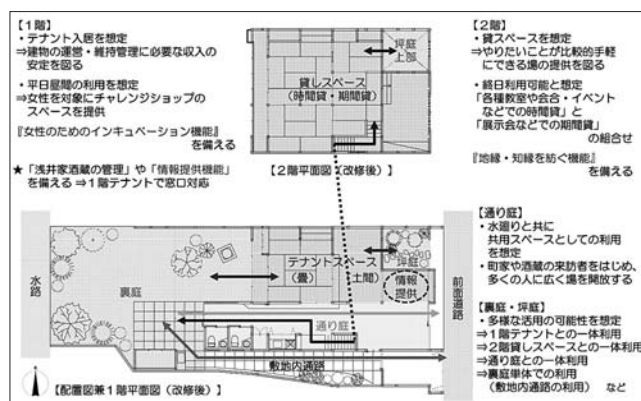
◆場所 「菊寿亭」：大和郡山市柳町1丁目11

【本家菊屋】(本店) 横

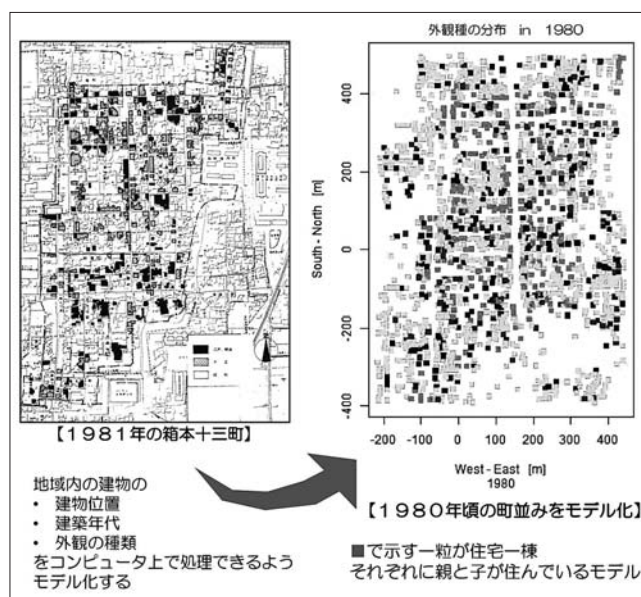
(編集・郡山支部 折目貴司)



【図表－3 “堺町の町家”の現況図】

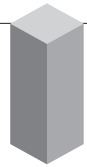


【図表－4 “堺町の町家”への提案】



【図表－5 箱本十三町のまち並みのシミュレーション例】

* 図表提供：本多健一／兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科



支部報告 奈良支部報告会

■奈良支部

平成25年7月12日奈良ロイヤルホテルにおいて、奈良支部役員会及び懇親会が開催されました。

17時より役員会が開催され、一般社団法人奈良県建築士会奈良支部規約（案）について審議、承認されました。その後、平成25年度事業計画（案）について審議され以下のような事業計画が決定されました。

平成25年度事業計画

1. 本部の事業計画に積極的に参画協力する。
2. 支部組織強化のため青壮年層を積極的に支援し、会員増強を図る。
3. 総務・教育事業委員会活動を推進する。
 - 1：本部の事業計画に積極的に参画協力する。
 - 2：支部組織強化のため、青壮年層を積極的に支援し、会員増強を図る。
 - 3：建築知識と技術の向上を図る。
 - 4：各委員会の積極的な活動を支援する。
 - 5：会員相互の親睦を図ると共に、他の支部との交流を深める。
 - 6：他の支部との共同事業の推進を図る。
 - 7：奈良市既存住宅木造耐震事業を行う。
4. 青年・女性委員会を推進する。
 - 1：現会員のニーズを把握した上での有意義な事業を行う。
 - 2：青年層、女性層の会員拡大の為の事業を行う。
 - 3：次世代の建築士を目指す方々に対しての事業を行う。
 - 4：地域イベントに参加する。
5. 国際・地域貢献・情報委員会活動を推進する。
 - 1：建築士として歴史風土を知り見識を高める事業を行う。
 - 2：韓国慶州建築士会を慈善訪問し交流を深める。
 - 3：奈良市と慶州市との建築における関係の研修会を行う。
6. その他必要と認める事業。

その後報告事項を経て役員会は閉会し、懇親会場に移動しました。

18時より稲原副支部長の司会で懇親会が開会、若井支部長のご挨拶で先刻役員会にて事業計画が承認されたことと、実施の進んでいる事業について説明されました。



引き続き司会より以下のご来賓が紹介されました。

奈良市長 仲川様、奈良市都市整備部部长 東井様、奈良市まちづくり指導室室長 仲谷様、奈良市まちづくり指導室建築指導課長 松村様、
なら建築住宅センター副理事長 細川様、なら建築住宅センター審査部審査課 伊伏様、
奈良県建築士会会長 福本様、奈良県建築士会事務局長 西崎様

来賓を代表して仲川奈良市長よりご祝辞をいただき、福本建築士会会長のご発声にて乾杯が行われ、歓談となりました。



後半には若井支部長をはじめとする本年度奈良支部の役員の紹介があり、賛助会の皆様のご紹介の後、竹村副支部長にて中締めのご挨拶がありました。以上、出席者36名の盛大な懇親会にて親睦が深められました。

（記・奈良支部 福本保治）



お知らせ

Information

●平成25年度建築士試験日程のご案内

1 平成25年一級建築士試験日程

- ①「学科」合格発表 9月10日(火)頃
- ②「設計製図の試験」 10月13日(日)
- ③「設計製図」合格発表 12月19日(木)頃

2 平成25年二級建築士試験日程

- ①「学科」合格発表 8月27日(火)
- ②「設計製図の試験」 9月15日(日)
- ③「設計製図」合格発表 12月5日(木)頃

3 平成25年木造建築士試験日程

- ①「学科」合格発表 9月10日(火)頃
- ②「設計製図の試験」 10月13日(日)
- ③「設計製図」合格発表 12月5日(木)頃

●平成25年度 設備・構造一級建築士講習について

申込書頒布は終了しました。

設備設計一級建築士講習

講 義：8月28日(水)～9月13日(金)
(連続する3日間)

修了考査：10月6日(日)

修了発表：12月11日(水)頃

構造設計一級建築士講習

講 義：9月2日(月)～9月20日(金)

(連続する2日間)

修了考査：10月20日(日)

修了発表：12月18日(水)頃

※詳細は(公財)建築技術教育普及センターのHP
(www.jaeic.or.jp)をご覧ください。

●平成25年度インテリアプランナー試験案内申込書について

○頒布期間：7月31日(水)～9月20日(金)

○頒布場所：(一社)奈良県建築士会 事務局

○頒布価格：1セット 1,050円(消費税込み)

○受付期間：8月1日(木)～9月20日(金)

○受付場所：(公財)建築技術教育普及センター 本部

○申込方法：受付場所(建築技術教育普及センター本部)
へ郵送で申込んで下さい。

○試験日

試 験 日	試験の区分	時 間
平成25年 11月17日(日)	学科試験	9:30～11:00 (1時間30分)
	設計製図試験	12:00～18:00 (6時間)

※試験に関するお問い合わせ

(公財)建築技術教育普及センター 近畿支部

T E L : 06-6942-2214

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏 名	支部	〒	住 所 (自宅)	勤 務 先
関 川 卓 司	生駒			
井 上 大 輔	奈良	619-0215	京都府木津川市梅美台1-4-1ボナール梅美台3-101	J.フロント建装
福 住 昌 信	生駒	630-0133	生駒市あすか野南3丁目7-22	福住建築設計事務所

構造設計・耐震診断・免震構造設計

NOBI 株式会社 ^{のび}伸 構造事務所

代表取締役 中 本 明

〒639-0225 奈良県香芝市瓦口2166番地 フロンティアビル

T E L 0745-71-2200

F A X 0745-71-2311

HP <http://www.nobiso.jp>

MAIL info@nobiso.jp

編集後記

暑い日が続いておりますが、皆様、体調を崩しておられませんか。

今年は、消費税増税の影響かもしれませんが、例年になく忙しく、また年々体力が落ちていくようで、私自身は少し夏ばて気味で過ごしております。

情報・広報委員になり1年が過ぎた今、「土會奈良」の編集に携わったことで、建築士会がどのような活動をしているのか、会員になって5年になるのですが、よりいっそう身近に感じることができるようになりました。また各支部の精力的な活動も知ることができ、驚きも感じています。各役員の方もいろんな活動に参加されている様子を知り、

私自身のためにも少しでも多くの活動に参加し、その体験を多くの方にお知らせできたらと思っています。

その反面、建築士会が抱えている問題も見えてくるようになりました。そのひとつが会員不足です。情報・広報委員会でも会員の増強をどのようにしていけばよいのか、また魅力ある建築士会にするにはどのようにしたらよいのか、日々話し合いをしていますがなかなか良い案がみつかりません。難しい問題ではあるのですが、皆様の意見をぜひお聞かせください。

(記・情報広報委員 宮浦重彦)

土 會 奈 良

通巻591号
平成25年9月1日(発行隔月1回1日発行)

発 行 所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 福 本 良 平
編 集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会
印 刷 所 株式会社 明新社

Calendar

2013年9月

- 7(土) さくらい万葉まつり(青年委員会)
- 7(土)～8(日) 3委員会合同見学会(初秋の美を巡る信州旅)
- 10(火) 一級・木造建築士試験(学科)合格発表
- 14(土) 三重県合同見学会(青年委員会)
- 14(土) 奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 15(日) 二級建築士試験(設計製図)
- 16(月) ☒ 敬老の日
- 23(月) ☒ 秋分の日
- 25(水) なら・すまいアップセンター住宅無料相談室
- 28(土) 奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会

Calendar

2013年10月

- 12(土) 奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 13(日) 一級・木造建築士試験(設計製図)
- 14(月) ☒ 体育の日
- 19(土)～20(日) 第56回建築士会全国大会「しまね大会」
- 23(水) 実務者のための工事監理ガイドラインの運用解説講習会
- 26(土) 奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会

住宅性能評価業務等の業務区域拡大のお知らせ

平成25年8月1日から、下記の対象業務について
業務区域を拡大いたしましたのでぜひご利用ください。

★業務区域

奈良県 全域
京都府 木津川市
笠置町
和束町
精華町
南山城村

新たに対象となった区域

★対象業務

住宅性能評価
長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査
低炭素建築物新築等計画に係る技術的審査
住宅事業建築主基準への適合性評価(省エネラベル)
住宅性能証明
省エネ法に基づく建築物調査



一般財団法人 なら建築住宅センター

TEL : 0742-27-6555 <http://www.zainara-kjc.net>